

▶ S-KYT研修(3時間コース)を実施して ◀

三重県消防協会 中勢支会 事務局

三重県津地域防災総合事務所
地域調整防災室 県民防災課

専門主幹 (課長代理) 山口 弘之

1. 三重県・津市を取り巻く環境

三重県における地理的環境は、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込むプレート境界付近であり、日本国内でも活断層が密集している中部圏・近畿圏に属しています。

過去を遡ると1605年の慶長地震、1707年の宝永地震、1854年の安政東海地震、同年32時間後の安政南海地震、1944年の昭和東南海地震など、100年から150年のスパンで南海トラフを震源域とするプレート境界型地震が繰り返し起こり、県内全域にわたる強い揺れや沿岸部においては、津波により多くの人命が失われてきたところです。また、1586年の天正地震、1854年の伊賀上野地震等活断層を震源とする内陸直下型地震も発生し、大きな被害を受けてきました。

また、津市においては、1498年の明応地震では、当時の安濃津港が壊滅的被害を被っています。

文部科学省の地震調査研究推進本部は、南海トラフ地震(M8～9クラス)の今後30年以内の発生確率を70%程度(平成28年1月1日現在)と発表しており、大規模地震発生の緊迫度は高い状況にあります。

平成26年3月18日に三重県が公表した「三重県新地震・津波対策行動計画」のとおり、地震・津波対策には終わりがなく、過去、何度も繰り返し大きな被害を受けてきた三重県にとって、地震・津波対策は、これからも取り組み続けなければならない永遠の課題であります。

2. 中勢支会及び津市消防本部の概要

三重県消防協会中勢支会の管内は、津市消防本部管内(津市域)と同一であります。津市は、北に鈴鹿市、西に伊賀市、名張市、奈良県、南に松阪市と接し、東は伊勢湾となっており、三重県の中央部を横断して位置し、琵琶湖とほぼ同じ大きさという広大な面積を有しています。また、海と山に囲まれた豊かな自然環境と、県庁所在地として都市機能が集積された地域となっています。江戸時代には、市域の多くが藤堂藩に属し、城下町としての賑わいがあるとともに、伊勢街道など6つの街道が通じ、東西の文化が接する地域でありました。現在も中部圏と近畿圏の結接点として、さらには、中部国際空港への海上アクセス拠点「津なぎさまち」を擁した交通ネットワークの拠点となっています。

津市消防本部は、平成18年1月1日、津市、久居市、河芸町、芸濃町、美里村、安濃町、香良洲町、一志町、白山町、美杉村の10市町村の合併に伴い、新「津市消防本部」として発足しました。消防本部のほか、4消防署、8分署、1分遣所の組織体制となっています。津市消防団は、団本部のほか、旧市町村エリアを単位とする10方面団を有しています(団員数は、平成27年4月1日現在、2,188名、うち女性消防団員146名)。また、平成25年6月から機能別消防団員として津市立三重短期大学の学生を採用しています(平成27年7月1日現在で男女合わせて、64名が在籍しています)。火災をはじめ複雑多様化するさまざまな災害から管内約28万人の市民と郷土を守るため、消防力の向上と充実に努めながら、

幅広い活動を展開しています。

3. S-KYT研修開催の経緯

三重県消防協会中勢支会では、例年、夏季に女性消防団員を中心に地域住民への防火・防災啓発を実施するにあたり必要な知識や手法を習得するため、「啓発研修」を開催しています。また、冬季には、分団長以上の消防団員を対象に地震や風水害などの大規模災害について学び、消防団に必要な備えについて考える機会として、「教養研修」を開催しています。

昨年度は、消防団員等公務災害補償等共済基金のご協力のもと教養研修の一環として、「消防団員安全管理セミナー」と「消防団員災害救援ストレス対策研修」を実施しました。

昨年度実施しましたこの研修が参加していた団員から好評であったため、今年度においては、多種多様化する災害に潜む危険をいち早く察知する感性を磨く機会を設け、現場活動における適切な対応能力の向上と消防団員の安全管理や公務災害の防止を学習するため、常備消防や企業においても取り入れられている「危険予知訓練」である「S-KYT研修(3時間コース)」を消防団員等公務災害補償等共済基金のご協力のもと実施したものです。

4. S-KYT研修の様子

平成27年12月6日(日)午後、プラザ洞津において、三重県消防協会中勢支会教養研修の一環として、S-KYT研修を開催しました。

当日は、団員87名が当該研修に参加、2会場に分散し、谷垂生氏(主任)、安江智氏、日野進氏、野澤修氏(主任)、上木原一志氏、清水武氏の6名のS-KYT指導員の方からオリエン

テーションを受けた後、DVDの上映を交えた講義をいただき、指差し呼称、唱和で確認行動を行い、タッチ&コールで各班の一体感や連帯感を高めた後、健康問いかけKY、危険要因の捉え方と表現の仕方、S-KYT基礎4ラウンド法について指導をいただき、各班が作成したS-KYTレポートを発表しました。あらかじめ決めておいた班のリーダーを中心に、団長や方面団長等の団幹部も一緒に参加し、大きな声で唱和を繰り返すなど、会場内は真剣な中にも和気あいあいとした雰囲気に包まれ、研修は進行していきました。

参加した団員からは、「分団に持ち帰って他の団員とともに指差し呼称などの手法を実施したい。」「改めて、S-KYTの重要性を認識できた。」「複数の方面団の団員が混じるように班が編成されていたので、他方面団の団員とも交流でき連帯感が生まれよかった。」などの声をいただき、昨年度に引き続き、非常に好評でありました。

また、事務局サイドとしても各団員が真摯に班別研修に取り組まれ、自由闊達な意見が出て相互の交流も深まり、たいへん有意義な研修を開催できたと思っています。

5. 今後の取組

三重県消防協会中勢支会といたしましては、今後も引き続き、消防団員の公務災害防止・安全対策などの研修や訓練に取り組んでいく所存です。

今回の研修の開催にあたり、ご協力いただきました講師の方々、消防団員等公務災害補償等共済基金企画課の担当者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

